

周年親子放牧に適した牧草種による周年放牧の実証

【研究のポイント】

近年、肉用牛繁殖経営の新規参入者において、初期投資が抑えられ省力的な飼養方法である周年親子放牧に取り組む事例が増えています。低標高地の放牧で多く利用されているバヒアグラスは、暖地型牧草で利用期間が夏期に限られており、牧草が育たない冬季には購入した粗飼料を給与しています。

そこで、当畜産研究部は国のAI（周年親子放牧）コンソーシアムに参加し、周年放牧に適した牧草種選定を担当しました。その結果、永続性、収量性の面において、春から秋にかけて利用する草種としてバヒアグラスとトールフェスクの2草種を選定しました。



本試験では、バヒアグラス及びトールフェスクについて放牧利用を想定した草丈で刈取調査を行った上で、実際に放牧地で草地造成方法を検討しました

《試験1》放牧を想定したバヒアグラス及びトールフェスクの刈取調査
低標高地を想定し、豊後大野市三重町で調査を実施、
放牧利用を想定した刈取を行い、草丈と乾物収量を調査しました。

〔試験品種 バヒアグラス：ナンオウ、トールフェスク：Kyushu15（試験中の品種で一般販売時期は未定）〕

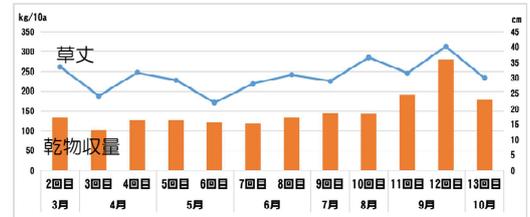
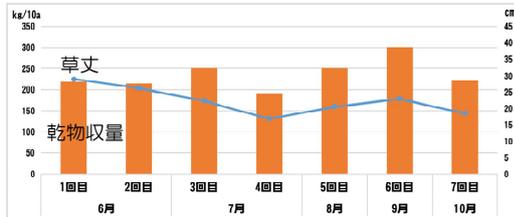


図1. 草丈及び乾物収量（バヒアグラス）

図2. 草丈及び乾物収量（トールフェスク）

バヒアグラスの利用が6月～10月に限定される、
一方、トールフェスクは3月～10月まで安定して利用できると考えられる

【研究の成果】

《試験2》トールフェスク（ウシフエ）の草地造成方法の検討
竹田市の放牧実施農家協力の下、トールフェスクの草地造成方法を検討しました。
1年目は蹄耕法※を検討し、2年目は機械を用いた播種を実施しました。

※ 蹄耕法：牛により放牧地の前植生の処理や播種後の鎮圧を行う省力的な草地造成法

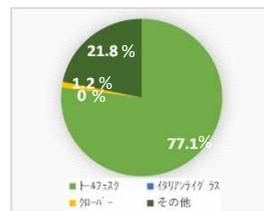
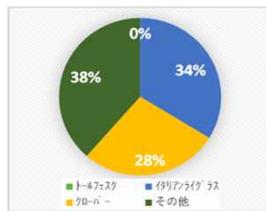


図3. 蹄耕法で造成した草地の草種割合 図4. 機械耕で造成した草地の草種割合 写真1. 造成したトールフェスク草地

トールフェスクは雑草競合に弱いいため、省力的な蹄耕法は適しておらず、
機械を用いた播種を行うことが望ましい

【生産者の声】



実際にトールフェスクを栽培して放牧利用しました。1年目はうまくいきませんが、2年目は機械を使ったら定着してくれました。嗜好性が悪いかもしれないと聞いていましたが、うちの牛たちにそのようなことはなく、喜んで食べていました。引き続き利用していきたいと思えます。
(竹田市肉用牛繁殖農家 菊池さん)

【連絡先】

担当： 畜産研究部 飼料・環境チーム
(品種に関する問い合わせはこちらへ0974-76-1219)
TEL： 0974-76-1214 (問い合わせは企画指導担当へ)
住所： 竹田市久住町大字久住3989-1